知り合っていくこと、手をつなぎ合うこと

園長　野中　泉

4月も終わりに近づき、春のはじめには賑やかな泣き声が響いていたいちご組（0歳児）、もも組(1歳児)が少し落ち着きはじめています。大好きなお母さんから知らない人（保育士）に突然抱き取られ「許さないぞ！」と火のついたように泣いていた新入園の子たちが、いつの間にか私たち（保育士）を認め「まあ、ここも悪くないじゃないか」とでもいうように場所や仲間たちとの暮らしを受け入れながら、各々にくつろぎ過ごす姿に見とれてしまいます。こんなに小さな彼らの中に新しい環境への違和を感じる力も、それに順応する力もちゃんと育っていることに感動するのです。

一方で、少し大きな新しいお友だちたちは、入園からしばらくの時間をおいて「あれ、お母さんと毎日離れないといけないのか？」と気がついたり、「思い通りにならない『ともだち』って奴らとつきあうのは大変だぜ」とわかってきたりで、ここに来て、行きしぶりを見せる子が増えています。毎朝「保育園に行きたくない」とごねられるお母さんたちは、さぞかし辛いだろうと（私もかつては、そんな親のひとりだったので）思いながらも、園長としての私はそんな姿にもやっぱり感動してしまいます。乳児から幼児へと成長し、自分と親だけではない関係の拡がりをきちんと意識できるようになっているからこそ、遊びたいけど、母と離れるのが寂しかったり怖かったり、同年代の友だちと関わるのにドキドキしたり、めんどうだと感じたり。そんないくつもの心の葛藤を小さな身体で精いっぱい受け止めながら、それでも明日の自分への一歩を踏み出そうとがんばっている彼らに、毎朝エール（応援）を贈らずにはいられません。

子どもたちだけではありません。新しくアトムの仲間になったお母さんたちの緊張した顔も、少しずつ緩んできたように感じます。朝夕に何気ない会話ができる間柄になってきたことで「毎朝、行きたくないって言われて困ってます」とか「子育てがしんどくて」なんていう声を直接聞かせてくれることも増えてきました。少し前のことになりましたが、4月 1 日の入園を祝う会の園長挨拶で、新入園児の保護者の皆さんに「アトムでは、つながりあいながら子育てすることを大事にしています。どうぞ席の両隣の人と握手して、よろしくと声をかけてください」と言いました。すると、すぐに笑顔で握手してくれた人もいましたが、戸惑った顔で固まってしまった人もいました。単純に席が遠くて手が届かなかった人もいますし、赤ちゃんを抱いていて手が離せなくて握手できない人もいました。「つながって、子育てしよう」そう言葉でいうことは簡単です。でも、実際につながりあうことは、この日の握手のように実は難しいことです。すぐに誰とでも距離を縮められる人もいれば、いきなりズカズカと自分の領域に他人に入ってこられるのが苦手な人もいます。自分の事情で精一杯で他人のことまで考えられない時だってあります。子どもたちが新しい環境で、戸惑ったり、葛藤したりしているのと同じように、大人だって知らない人と知り合っていく過程には、戸惑ったり、葛藤したりの連続があります。誰かと手をつなぎたいタイミングもひとりひとり「今やねん！」が違うのです。でも、そうであるからこそ、アトムは誰かが「つなぎたくなった」その時に、「つなげる手」を伸ばし続ける園でありたい、そう心から願っています。